1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

1 Plate 1990 C 1 Plate How 1/2					
事業所番号	4091400087				
法人名	株式会社 サポート				
事業所名	事業所名グループホーム ピアたぐま所在地福岡市早良区田隈2丁目21番31号				
所在地					
自己評価作成日	平成28年10月20日	評価結果確定日	平成28年12月24日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先 http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action kouhyou pref search keyword search=true

【評価機関概要(評価機関記入)】

(参考項目:30)

評価機関名	株式会	社アール・ツーエス	
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-1	6 TEL:092-589-5680	HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成28年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)【Altキ-+enterで改行出来ます)

|明るく温かな環境の中でお一人お一人が生き生きと楽しく暮らせるように日々努力しております。日々 の生活の中で個々人の持つ能力を活用しながら、生活活動、体操やレクレーションを通じて心身ともに 機能の低下防止ができるケアを行っています。

ご希望があれば出来る範囲内で看取りをご家族様と一緒にさせて頂きます。

ケアに必要な研修にも参加し介護者としての資質も向上するように努力しております。

|ご本人・ご家族様から、ピアたぐまに入居して良かったと思って頂けるようスタッフ皆で頑張っていま

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ピアたぐま」は近隣に公園などもある閑静な住宅街の一角にある2ユニットグループホームである。 母体法人は福 ┃岡、長崎で複数の介護施設を経営しており、近隣に系列のデイサービス、サービス付き高齢者住宅もある。3施設 **│合同で夏祭り、餅つきなどの行事を行い、地域との交流に努めている。事業所は木のぬくもりに包まれ暖かな環境** |にあり、明るく、楽しく、アットホームな雰囲気を大事にしており、見学者からお褒めの言葉を頂くことも多い。地域の 事業所同士の情報交換を行い、相互協力により、サポートタウンとしての役割に力を入れている。2年前から看取り ■の対応を始め、希望があれば終末期には家族が一緒に泊まれるようにし、職員も勉強会をしており、体制が整って いる。長く勤める職員も多く、介護福祉士の取得者も増えてきた。今後も地域の中で存在感を発揮して行く事が大 いに期待される事業所である。

┃Ⅴ.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

4. ほとんどいない

	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目	↓該	取り組みの成果 当するものに〇印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向 を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の O 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	0	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 がある (参考項目:20,40)	O 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	0	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	0	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした 表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 〇 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	0	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが O 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	0	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う	0	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	O 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが				

自	自己評価および外部評価結果						
自	外	语 · 日	自己評価	外部評価	6		
己	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容		
Ι.3	理念に	こ基づく運営					
		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理 念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して 実践につなげている	 地域との関わりを持つ機会をなるべく作る	開設当初からの理念があり、パンフレット掲載と玄関の掲示がされている。めざすことを理念としてあげているが、自然に取り組みの中で意識が生まれており、安心感をもってもらえるような関わりを家族や本人に提供している。毎日の目標リストがあり、その日の担当が選んで、特に取り組みたいものを掲げており、選ぶものにスタッフの心情が現れ業務改善に役立っている。一年の目標も定め、年末に振り返り、話し合っている。			
2		〇事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	施設行事や地域行事への参加、地域ボラ	近隣の系列デイ、老人ホームと協力して3施設での合同行事や催しを開き、夏祭りや餅つきなどは開放しており、今年の運動会は地域の方にも参加してもらいボランティア協力もあった。近くの障碍者施設のバザーも毎年恒例になっている。近隣デイに慰問が来る際は一緒に楽しむ。町内会にも加入し、地区総会にも参加し、地域情報が回覧板で回ってくる。地域の事業所同士のネットワークもあり、入居紹介、勉強会など相互協力して運営されている。	近隣施設を使って、地域包括と協力して地域の高齢者が参加される「たんぽぽ会」を月2回開いているが、そこへの参加、協力をしていくことが計画されている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向け て活かしている	行事を通じて交流を図り認知症への理解を 深めている。				
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かし ている	町内会長や民生委員、地域の方は忙しいとの理由から不参加状態。現在、ご家族、いきいきセンター、地域居宅のケアマネの方に参加頂き取り組みや事例報告等を行い意見交換を行っている。	はい。家族には宝貞に条内し、4,5人が参加される。 入居者は以前は来てもらっていたが不穏になり今はない。施設の報告、空き状況、事例報告などをしており、 包括からのお知らせなども頂いている。今年は避難訓練と同日に行い、消防署員にも参加してもらってアドバイスも頂いた。議事録は閲覧用の掲示をしている。	たんぽぽ会の参加者にも声掛けして、勉強会や研修のようにテーマを設けて、地域の参加者が増えるような取り組みの実現に期待したい。ご案内時には前回議事録を使って報告もされてはどうだろうか。		
		〇市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護サービス係りへ連絡行い指導を 受けながら運営を行っている。	事故報告や相談事などがある際は区の担当課に連絡をして報告、指示を仰いでいる。わからないことやサービスの導入時には市のサービス係に相談しており、何かあった時の回答も親身でしやすい。生活保護の方の受け入れもあり、必要時にプラン報告なども行う。直近で指定更新の実地指導があり、相談しながら対応された。			
6		〇身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サー ビス指定基準及び指定地域密着型介護予防サー ビス指定基準における禁止の対象となる具体的 な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含め て身体拘束をしないケアに取り組んでいる	福岡市の研修に毎年参加する機会を作り、 内部研修にて職員の身体拘束に対する意 識を高め身体拘束をしないケアに取り組ん でいる。緊急的に身体拘束が必要な場合は 検討会議を開催し家族が十分理解した上で 同意書を頂き実施するようにしている。	玄関は職員が管理して開閉しており自由には出られない。1,2Fの行き来は自由だが、基本的に見守りで対応している。以前は危険防止のため家族の要望で四点柵の利用があったが、いまは無く、センサーでの見守り対応をしている。毎年外部研修に参加し、参加した職員が内部での伝達講習も行っている。スピーチロックやドラッグロックに対しての理解も進めている。			

1

	H28白	근 - 4	水部球	価夷(゚゙゙゙゙゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚	ナーぐ	'丰)	1
J								

_		<u> H28白己 • 外部評価表(ピアたぐま) </u>			
自自	外	項目	自己評価	外部評価	[
自己	外部	以上,	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	福岡市の研修に毎年参加する機会を作り、 内部研修に手職員の虐待防止に対する意 識を高めている。		7,000,000,000
8	(6)	〇権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年 後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要 性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支 援している	成年後見制度についての研修に参加する 機会を作り内部研修にて職員への周知を 図っている。	成年後見の利用者が2名おり、外部の後見人を利用している。入居されてから後見人利用された方もおり、情報提供、協力して制度利用につながった。外部研修にも参加し、内部での伝達も行う。実際の後見人とのやりとりや、研修によって基本的な理解はしている。制度資料などの準備もされている。必要時には外部の専門機関などに相談して対応する。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や 家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行 い理解・納得を図っている	入居前に契約書の内容を説明し不安なく入 居生活が始められるように理解したうえで 同意を頂くようにしている。		
		に反映させている		家族会が年2回あり、ひな祭りや敬老祭と同日に行って8割方が参加されている。ご意見や苦情など頂いたときは親身になって対応しており、家族会での意見から認知症の勉強会の実施にもつながった。日頃の要望は面会時に聞くことが多い。写真付きの事業所だよりが毎月発行されており、個別の状況は面会時や電話で随時報告を行っている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている		事業所ミーティングは基本的にパート職員も含め全員参加で、欠席者も事前に申し送りで意見を伝え、議事録で共有する。主に入居者の状況について話し合い、新しい職員からの提案にも積極的に話し合って様々な意見を取り入れる。日頃から管理者も現場に入っており個別の相談もしやすい。	
12		〇就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環 境・条件の整備に努めている	毎年、キャリアアップ制度によりパート職員 に対して正社員希望を募り昇給の機会を与 えている。		
13	(9)	〇人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用に あたっては性別や年齢等を理由に採用対象から 排除しないようにしている。また事業所で働く職員 についても、その能力を発揮して生き生きとして勤 務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証 されるよう配慮している		もあり、業務として参加も出来る。休憩時間や場所も 確保され希望休暇もとられている。手先の器用な職員	職員同士のコミュニケーションの機会として食事会や懇親会、事業所同士で横断するような機会を設けることで、職員のストレスケアや風通しのよい職場づくりの醸成も検討されてはどうだろうか。

H28白己 - 外部評価表(ピアたぐま) 自外 自己評価 外部評価 項 日 己部 実践状況 実践状況 次のステップに向けて期待したい内容 14 (10) 〇人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権 市が主催する人権についての外部研修に毎年参加し を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓 ており、内部での伝達講習も行っている。27年度は「介 外部研修や内部研修において人権教育・啓 発活動に取り組んでいる 護と人権について考える」をテーマに受けたが、伝達 発に取り組んでいる。 |研修はされなかった。それ以外でも虐待防止や認知症 高齢者の理解に関して学習されている。 〇職員を育てる取り組み 15 外部研修・内部研修の機会を確保してい 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 る。ケアに関してはミーティング内で職員同 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 士でケアの方法を話し合ったり、現場での の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 指導に基づき実践を行っている。 進めている 〇同業者との交流を通じた向上 16 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 地域のグループホーム交流会に参加して 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 研修や意見交換を行っている。 |等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 〇初期に築く本人との信頼関係 |サービスを導入する段階で、本人が困っているこ <mark>|アセスメントに基づき要望や困りごとなどプ</mark> と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人のランに位置付け安心して生活できるように 安心を確保するための関係づくりに努めている 努めている。 18 〇初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている アセスメントに基づき要望や困りごとなどプ こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 ランに位置付け安心して生活できるように づくりに努めている 努めている。 19 〇初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ アセスメントに基づき要望や困りごとなどプ の時」まず必要としている支援を見極め、他の ランに位置付け安心して生活できるように サービス利用も含めた対応に努めている 努めている。 〇本人と共に過ごし支えあう関係 20 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 本人の能力に応じ職員や利用者同士が助 暮らしを共にする者同士の関係を築いている け合う関係性や役割を作る取り組みをして いる。 〇本人を共に支えあう家族との関係 日頃の状況などこまめに伝えたり、毎月の 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 ホーム通信を発行して日頃の様子をお伝え 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 している。行事参加等により本人を支える えていく関係を築いている 関係を築く努力をしている。

3

(株)アール・ツーエス

		H28白己 - 外部評価表(ピアたぐま)			
自己	外	項 目	自己評価	外部評価	
己	部	以	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なるべく家族や親族・友人が来やすい環境 を作るよう支援している。	面会に月1回以上来る家族も多く、疎遠な方は事業所から連絡とってきてもらうこともあり、知人や友人との関係を継続する方もいる。家族に連れ出してもらって自宅に帰ったり墓参りにいくこともあった。一時帰宅や外泊の際は必要事項を申し送っている。個人で携帯電話を持つ方は自由に連絡し、取り次ぐこともある。以前は年賀状発送の支援もした。	
23		〇利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	基本一人で居室で過ごすことなく利用者同 士が活動出来るように支援している。		
24		〇関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も新たな相談あるときは相談に 応じるようにしている。		
		人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	•		
25		〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	向を聞き取りプランに反映している。聴取困 難な方にはケア会議にて本人の現状を踏	各ユニットの計画作成担当者が担当し、アセスメントを行い、口頭で聞き取って記録しており、半年での見直しにもつなげている。「介護手順書」もアセスメント同時期に作成し、変化があった時には随時変更も行い、プラン作成に活かしている。意思疎通の難しい方は、ケア会議の中で意見を共有して、現場の意見を取り入れた以降の把握に努めている。	
26		〇これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	アセスメントや情報を職員間で共有しケアプ ランに反映するようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	アセスメントやモニタリング等の情報をケア 会議にて話し合い現状の把握に努め職員 間で共有しできるようにしている。		
28		〇チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	アセスメントやモニタリング等の情報をケア 会議にて話し合い職員間で意見を出し介護 計画を作成している。	毎月のケア会議の中で、当月見直しにあたる入居者の話し合いを行い、プラン作成は計画作成者が主に行っている。職員はプラン内容ごとのサービス実施記録をもとにしたモニタリングを行い、同チェック表によってプラン目標も共有されている。担当者会議は随時~半年程度プラン見直し時に開催し、主に計画作成、管理者、職員で話し合う。医師の指示は連携ノートに残し、必要時にはプランに入れ込んで変更につなげる。	

H28自己・外部評価表(ピアたぐま)

		<u> H28自己 - 外部評価表(ピアたぐま)</u>		L. +n===/n	-
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		〇個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	アセスメントやモニタリング等の情報をケア 会議にて話し合い職員間で情報共有を図り 意見を出し介護計画を見直し作成してい る。		
30		〇一人ひとりを支えるための事業所の多機能化本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	アセスメントにより担当者会議を行いケアプ ランサービス内容に反映している。		
31		〇地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握 し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな 暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や地域の住民を招いての交流 を図り、地域のボランティアの訪問・関連施 設の利用者との交流をするようにしている。		
32		〇かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得 が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きな がら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は希望する医療機関にて受診して頂	提携医は3病院から必要に応じて選んでもらい、往診もしており、整形外科など他科受診などの際には基本的には家族支援で、緊急時には事業所から支援も行う。「医師との連携ノート」を別途記録回覧し、情報共有しており、家族にはその都度報告もしている。訪問歯科との連携もされている。	
33		〇看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気 づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝え て相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を 受けられるように支援している	異常があれば早期に連絡し相談を行い指示を受けるようにしている。		
34		そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり を行っている。	入院時には病院関係者へ情報の提供を 行っている。その後も病状の経過や退院時 期などの情報交換を行いながら早期に退院 できるようにしている。		
35		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い 段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所 でできることを十分に説明しながら方針を共有し、 地域の関係者と共にチームで支援に取り組んで いる	重度化した場合や終末期の状態が予測されたら早急に家族・医師・施設職員で話し合いを行い方針を共有するようにしている。 看取り希望される場合は書面にて方針の共有を行い同意書を交わしている。	2年ほど前から要望もあって看取りの対応も始めており、徐々に職員の体制やスキルもあがってきて受け入れるようにもなってきた。これまでに4名の方の看取りがあった。指針は入居時に説明し、重度化の際には改めて医師と同席のもと行っている。ターミナルや医療に関しての勉強会も行う」。看取りプランも立てており、その方らしく過ごしてもらうよう働きかけている。ターミナル期には家族が泊まることもあった。	

5

	H28自己 - 从部郭価表 (ピアたぐま)					
自己	外	項目	自己評価	外部評価		
	部	~ -	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職 員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行 い、実践力を身に付けている	福岡市消防局の普通救命講習を全ての職員が受けるようにし不測の事態に備えている。			
		〇災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を全職員が身につける とともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し災害時の対応に 取り組んでいる。	年2回のうち1~2回は消防署の立会いで、うち1回は事業所単独で行っている。以前消防署員との合同訓練後に運営推進会議に参加してもらうこともあった。備蓄物にアルファ米、水と、ようかんもあり。3日分を確保している。訓練手順として、近隣施設への電話連絡と協力要請は入れこまれている。AED設置があり新人は救急救命訓練に必ず参加している。	地域との協力体制を築くために、参加の呼びかけ、参加されることが期待される。 近隣の関連施設との合同訓練も企画検討されてはどうだろうか。	
		人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
38		〇一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを 損ねない言葉かけや対応をしている	外部研修への参加、内部研修でのフィード バックにより、職員間で話し合いをや振り返 りを行いながら適切な対応に努めている。	市が主催するプライバシー保護などの研修に参加し、 内部での伝達を行う。入居者の人格を尊重し、動きを 制限せず、制止しないような働きかけを意識しており、 排泄介助や入浴介助の際も羞恥心に配慮したケアを 心がける。お便りなどの写真利用に関しても入居時に 書面で個人情報利用の同意書を交わしている。	職員一人一人がケアを振り返って、意識づけをしていくために、気になる言葉遣いや表現、 行動などのセルフチェックをしてみてはどうだろうか。	
39		〇利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	本人の体調や気分に合わせて日中の過ご し方ができるように心がけている。			
40		〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調や気分に合わせて日中の過ご し方ができるように心がけている。			
41		〇身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	出来る方には自分の服を選んで頂いたり、 化粧などの身だしなみができるように働き かけている。			
42		〇食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準 備や食事、片付けをしている	能力に応じて出来るお手伝いをお願いして	業者からのメニュー作成、食材配達があり、副菜、ご飯、汁物を事業所で調理している。状態によって個別対応もしている。調理や盛り付け、皿洗い、配下膳など出来る方には役割分担を決めて手伝ってもらう。おやつレクとして皆一緒にしたり、BBQを楽しむこともある。職員は別時間に個別の物を食べている。	個別に聞き取った好みや食べたいものの反映として、個別での外食支援なども計画に入れ込んで実現されることが期待される。	

		H28白己 - 外部評価表(ピアたぐま)			
自己		項 目	自己評価	外部評価	i
		- ヴ ロ 	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		〇栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態やカ、習慣に 応じた支援をしている	カロリー・塩分などが分かる献立を選んでいる。病状に合わせた形態や分量で食事提供をしている。また、食事量や水分量を記録し摂取が十分にできているか把握できるようにしている。		
44		人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行うようにしている。必要な方は訪問歯科により治療や定期健診、メンテナンスを行うようにしている。		
45	(19)	〇排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとり の力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレで の排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェック表を活用しなるべく失禁や失 敗がないようにトイレでの排泄が行えるよう に支援している。	入居者それぞれの状態に合わせた支援を行い、自分で出来る方には自分でしてもらい、支援の必要な方は排泄チェック表を元にしてタイミングを見てトイレ誘導などをしている。拒まれた際は時間をおいたり、時間を変えたりして対応する。排泄に関しても羞恥心に配慮して、入居者にわからないような言葉で共有している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工 夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に 取り組んでいる	排泄のチェック表を活用し排便のパターン を把握し水分摂取や運動、医師の指示によ り適宜薬により快適に排便を促すようにして いる。		
47	(20)	〇入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決 めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の体調や排便状況に応じて、2~3日毎に入浴を行っている。便失禁が酷い場合はその都度入浴をするように心がけている。	三方向介助が出来る配置に浴槽が置かれており二人介助もしやすい。一人週2~3回、昼過ぎから夕方の対応が主で、二人介助の場合には午前に入ることもある。浴槽のお湯は汚れて来たら適宜溜め流して清潔を保つ。拒まれた際も無理強いせず、タイミングをみて誘導し、少なくとも週2回は入ってもらう。皮膚観察も行い、異常時はすぐに医師に伝達している。	
48		〇安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に合わせ休息や睡眠をとって 頂いている。		
49		〇服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用 法や用量について理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	医師との連携ノートを活用し主治医との連携を図っている。また、薬剤師との連携をとり適切な服薬と服薬方法を支援している。		
50		〇役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントにより担当者会議を行いケアプ ランサービス内容に反映している。		

7

	H28自己 - 外部評価表 (ピアたぐま)						
自己	外	項目	自己評価	外部評価			
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容		
51	(21)	〇日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している		年間を通して、季節折々の外出行事があり、毎月1回程度は近隣施設の催しや、行事の開催で行き来もしている。近くに公園があり、気候のいい時には気軽に散歩にも行っている。外出行事はデイサービスの大型車を借りて全員で参加するようにしており、家族にも呼び掛けて支援してもらうことも多い。			
52		〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解し ており、一人ひとりの希望やカに応じて、お金を所 持したり使えるように支援している	ホームにて預かり金により必要な物を購入 するようにしている。必要な方は自己管理 でお金を所持しているが買い物の機会は作 れていない。				
53		〇電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙 のやり取りができるように支援をしている	要望があるときは、電話での取次を行っている。個人で携帯使用している方は自由に使用できるようにしている。				
54	(22)	〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴 室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をま ねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がな いように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、 居心地よく過ごせるような工夫をしている	バリアフリーな環境と設備で快適に生活できている。適切な気温・湿度の心がけている。室内装飾を入居者と作成し季節感を感じられるようにしている。	基本的にはフロアで過ごしてもらうことが多く、リビングの室温は夏場と冬場で差をつけて気温を見ながら設定しており、季節の変化が体感できるようにしている。環境整備係を設け、季節感のあるものを考えて季節に応じた飾りつけをする。静かにしたいときも玄関横に椅子を設置して、気分に合わせて一人で休むこともできる。リビングは南向きの窓で明るく、カウンターキッチンを中心に回廊式にもなっており、簡単な歩行訓練も可能である。			
55		用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の 工夫をしている	気の合った入居者同士が話が出来たり、食 事が出来るようなテーブルセッティングとし ている。				
56		〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談 しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし て、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしてい る		居室のドアの飾りも季節ごとに入れ替えており、変化を持たせている。自分の誕生日がわかるように誕生会の時の飾りを部屋に見えるように飾っており居室内を飾り付ける。介護ベッド、クローゼットは事業所の備え付けで、たんすなど持ち込みは自由にできる。テレビや化粧台、机を持ち込む方もいた。			
57		〇一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	室内はバリアフリーで歩行範囲、トイレ・浴 室に手すりを備え安全に生活できるようにし ている。				

8

(株)アール・ツーエス